

Fungiidae クサビライシ科  
*Cycloseris* マンジュウイシ属

***Cycloseris distorta* (Michelin, 1842)**

**(Figs. 1–10)**

*Fungia distorta* Michelin, 1842: 316; 1843: 12, pl. 5 [no locality given].

*Diaseris distorta*: Milne Edwards & Haime 1851: 118; 1857: pl. D12, figs. 4a–b 1860: 55.

*Fungia (Cycloseris) distorta*: Hoeksema 1989: 37, figs. 56–70.

*Cycloseris distorta*: Hoeksema 2014: 74; Yokochi *et al.* 2019: 45.

*Cycloseris* sp.: Nomura 2014: 12, figs. A–F; Nomura 2016: 12, figs. A–F; Nomura *et al.* 2016: 9, 19.

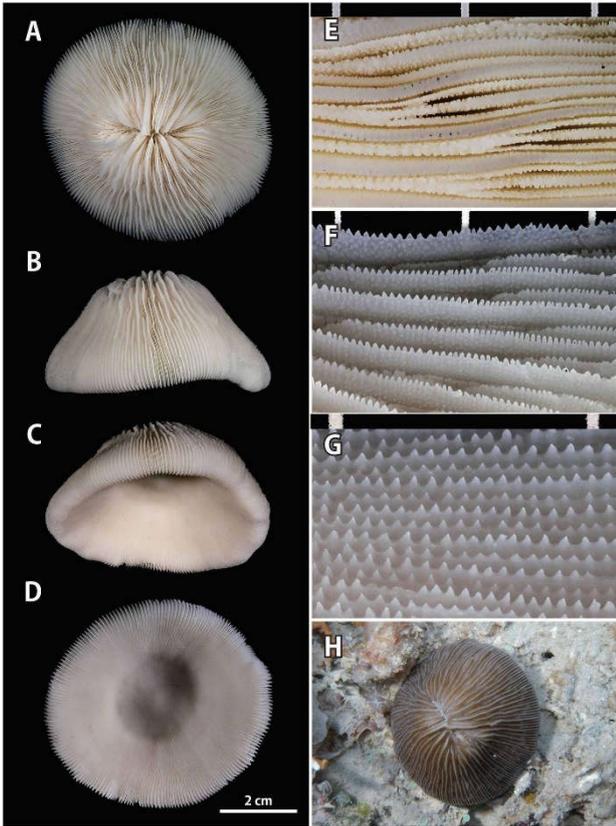
not *Diaseris distorta*: Veron & Pichon 1980: 121, figs. 194–196 (= *Cycloseris sinensis*); Veron 1986: 326 (part), 1 skeleton fig. (= *Cycloseris sinensis*); Nishihira 1991: 110 (part), lower fig. (= *Cycloseris fragilis*); Veron 2000: vol. 2, 248 (part), 1 skeleton fig. (= *Cycloseris sinensis*); Nishihira 2019: 56 (part), 1 skeleton fig. (= *Cycloseris sinensis*).

? *Diaseris distorta*: Veron 1986: 326 (part), figs. 1–3; Nishihira 1988: 110; Nishihira 1991: 110 (part), upper fig.; Uchida & Fukuda 1989: 18, 1 fig.; Nishihira & Veron 1995: 239, 2 figs.; Veron 2000: vol. 2, 248 (part), figs. 1–4.; Nomura & Mezaki 2005: 34, fig. 21; Nishihira 2019: 56 (part), 1 underwater fig.

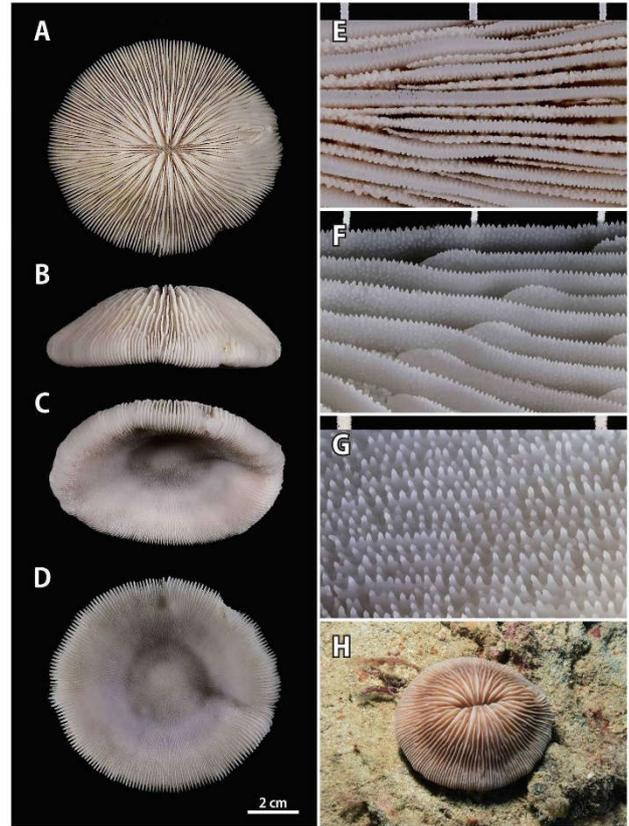
ユガミマンジュウイシ 新称

(図 1-10)

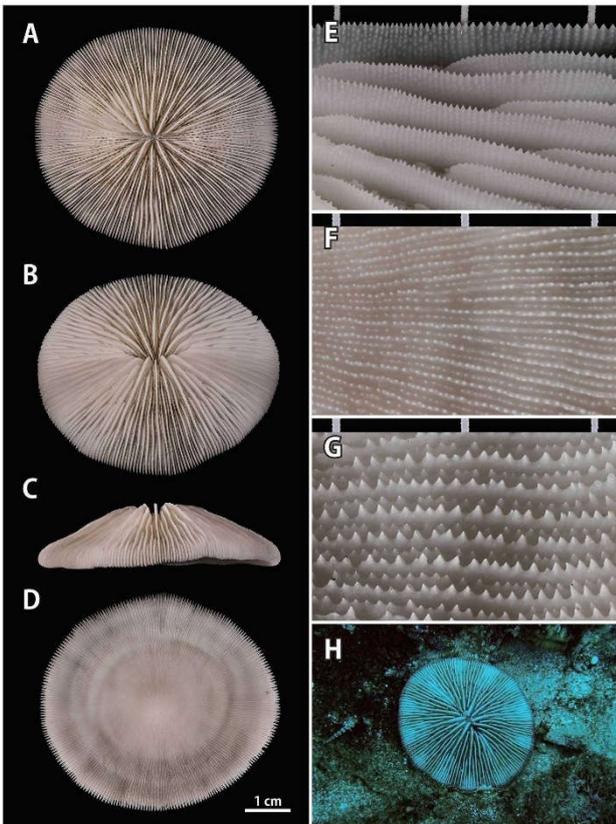
マンジュウイシ類の一種: 野村 2016: 12, 図 A-F; 野村ら 2016: 9, 19.



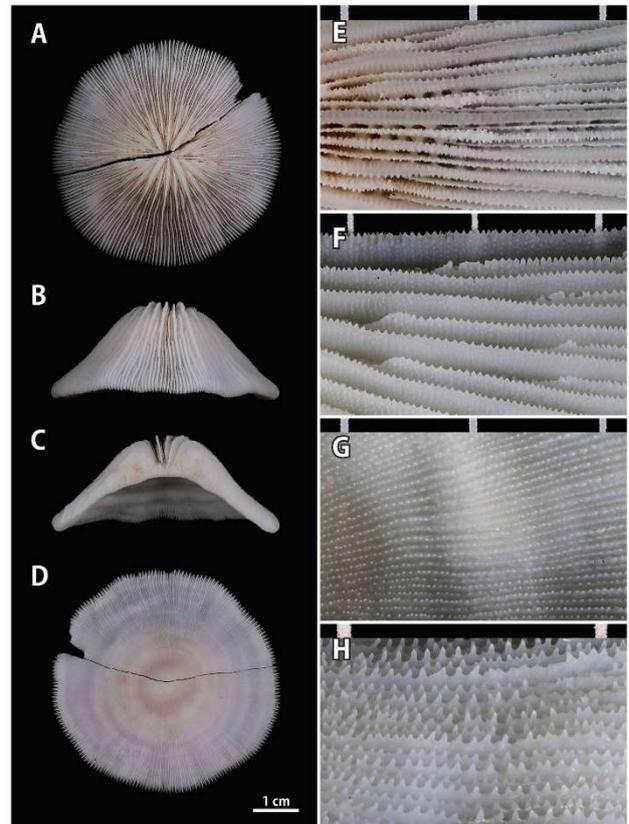
© H. Tachikawa / JSCT 1



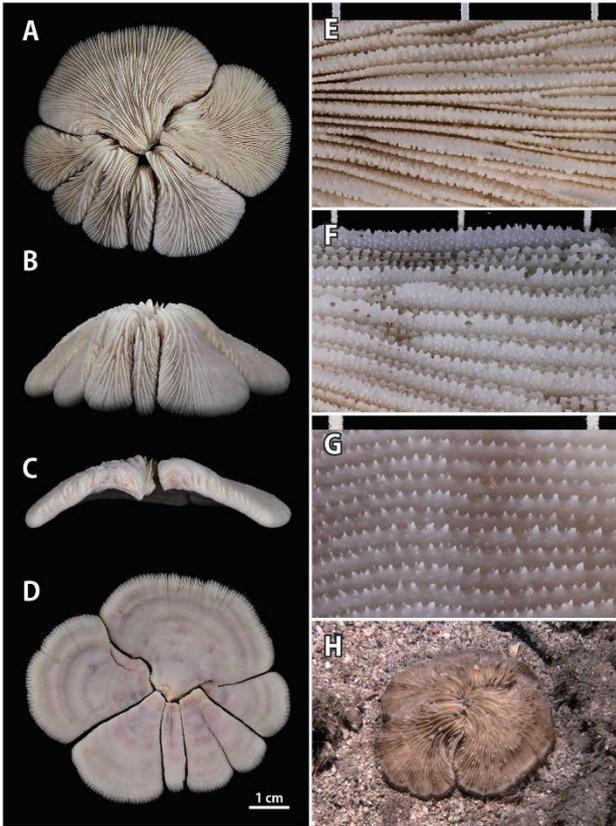
© H. Tachikawa / JSCT 2



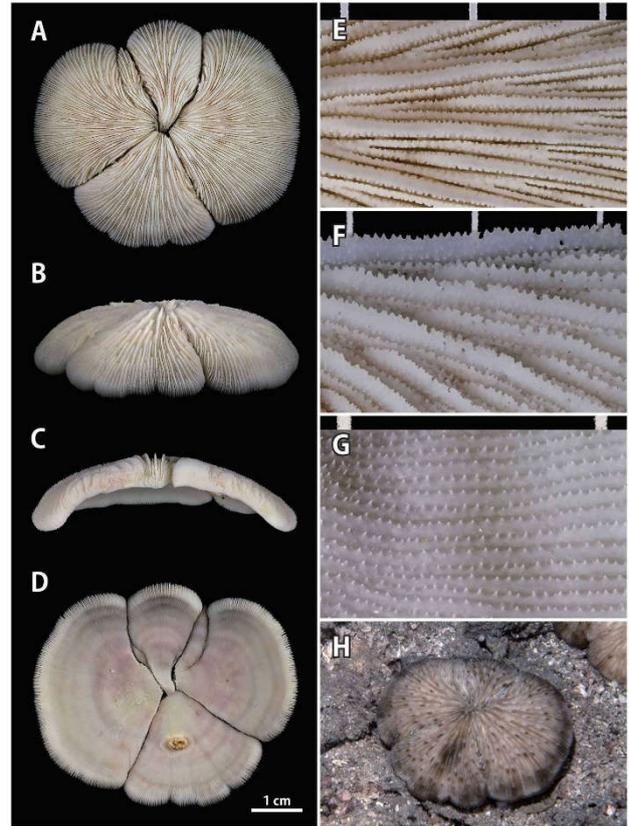
© H. Tachikawa / JSCT 3



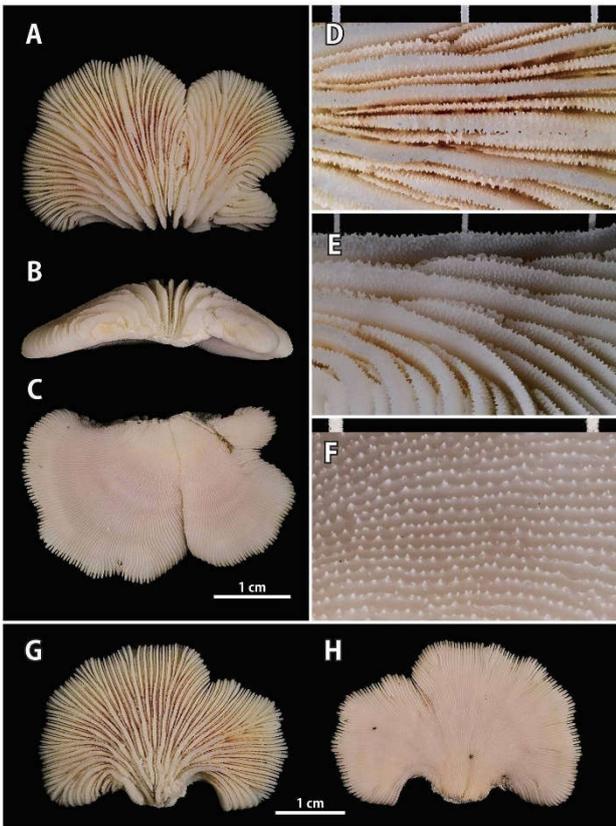
© H. Tachikawa / JSCT 4



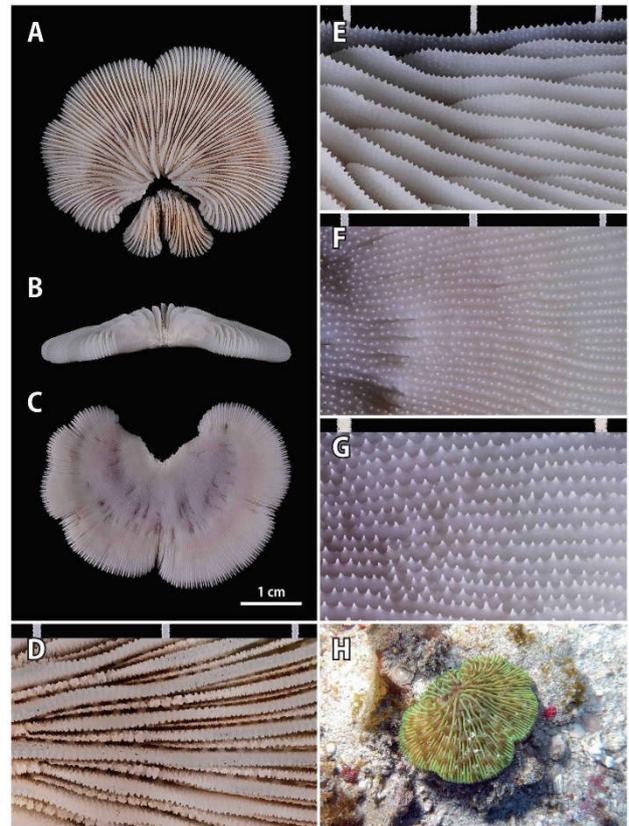
© H. Tachikawa / JSCT 5



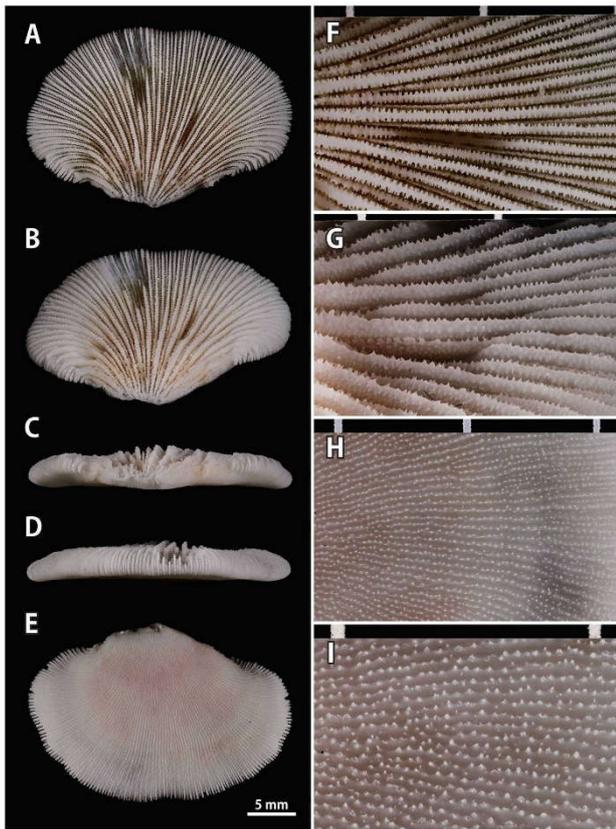
© H. Tachikawa / JSCT 6



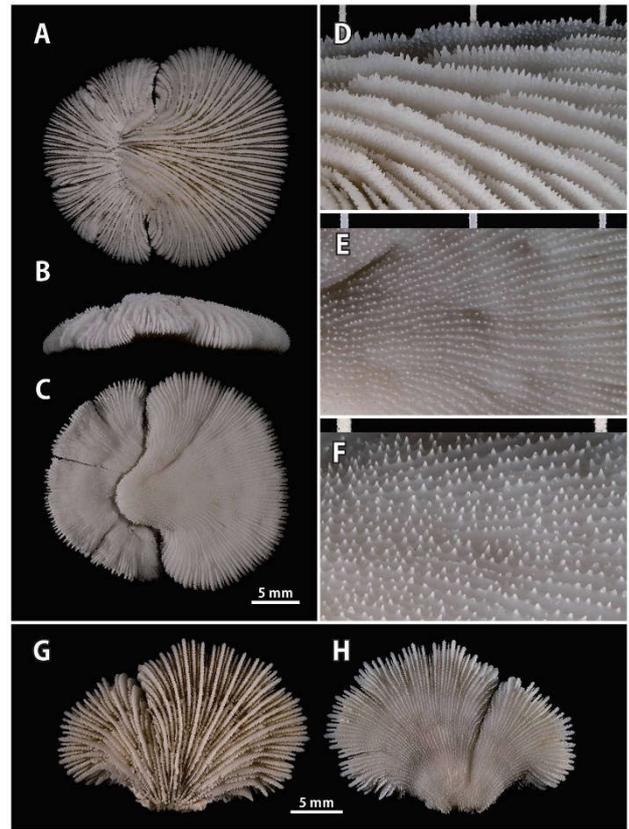
© H. Tachikawa / JSCT 7



© H. Tachikawa / JSCT 8



© H. Tachikawa / JSCT 9 10



© H. Tachikawa / JSCT

図 1A-H. CMNH-ZG 06782. 西表島網取湾, 水深 37 m. 2014-08-04. サンゴ体の長径 57.4 mm. 立川浩之採集. 和名基準標本.

A-D: サンゴ体の上面, 側面, 斜め下面および下面.

E: 隔壁の配列状態.

F: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

G: 斜め方向から見た肋の突起列.

H: 生時のサンゴ体.

図 2A-H. CMNH-ZG 08576. 奄美大島国直海岸, 水深 30 m. 2017-09-13. サンゴ体の長径 46.8 mm. 立川浩之採集.

A-D: サンゴ体の上面, 側面, 斜め下面および下面.

E: 隔壁の配列状態.

F: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

G: 斜め方向から見た肋の突起列.

H: 生時のサンゴ体.

図 3A-I. CMNH-ZG 10780. 奄美諸島加計呂麻島, 水深 20 m. 2024-11-19. サンゴ体の長径 53.1 mm. 立川浩之採集.

A-E: サンゴ体の上面, 斜め上面, 側面, 斜め下面および下面.

F: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

G: 肋の配列状態.

H: 斜め方向から見た肋の突起列.

I: 生時のサンゴ体.

図 4A-H. MU-AOU393. 奄美諸島 (採集地点・水深・採集日不明). サンゴ体の長径 48.9 mm. 奥裕太郎採集.

A-D: サンゴ体の上面, 側面, 破断面および下面.

E: 隔壁の配列状態.

F: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

G: 肋の配列状態.

H: 斜め方向から見た肋の突起列.

図 5A-H. CMNH-ZG 07424. 小笠原諸島父島, 水深 30 m. 1992-11-08. サンゴ体の長径 66.0 mm. 立川浩之採集.

A-D: サンゴ体の上面, 側面, 破断面および下面.

E: 隔壁の配列状態.

F: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

G: 斜め方向から見た肋の突起列.

H: 生時のサンゴ体.

図 6A-H. CMNH-ZG 07425. 小笠原諸島父島, 水深 30 m. 1992-11-08. サンゴ体の長径 46.8 mm. 立川浩之採集.

A-D: サンゴ体の上面, 側面, 破断面および下面.

E: 隔壁の配列状態.

F: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

G: 斜め方向から見た肋の突起列.

H: 生時のサンゴ体.

図 7A-H. CMNH-ZG 05518a-b. 小笠原諸島父島列島西島, 水深 52 m, ドレッジ採集. 2009-07-16. A-F: CMNH-ZG 05518a. サンゴ体の長径 35.4 mm. H-I: CMNH-ZG 05518b. サンゴ体の長径 34.9 mm. 東京都小笠原水産センター調査船興洋/立川浩之採集.

A-C: サンゴ体の上面, 側面および下面.

D: 隔壁の配列状態.

E: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

F: 斜め方向から見た肋の突起列.

G: サンゴ体の上面.

H: サンゴ体の下面.

図 8A-H. CMNH-ZG 07054. 小笠原諸島母島, 水深 30 m. 2015-02-23. サンゴ体の長径 41.3 mm. 立川浩之採集.

A-C: サンゴ体の上面, 側面および下面.

D: 隔壁の配列状態.

E: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

F: 肋の配列状態.

G: 斜め方向から見た肋の突起列.

H: 生時のサンゴ体.

図 9A-I. CMNH-ZG 07417. 小笠原諸島父島, 水深 35 m. 1991-08. サンゴ体の長径 27.4 mm. 立川浩之採集.

A-E: サンゴ体の上面, 斜め上面, 側面 (2 方向) および下面.

F: 隔壁の配列状態.

G: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

H: 肋の配列状態.

I: 斜め方向から見た肋の突起列.

図 10A-F. SMP-HC 472. 和歌山県田辺湾口, 水深 20 m. 1988-08-01. サンゴ体の長径 24.2 mm. 伊藤立則採集. G, H: SMP-HC 473. SMP-HC 472 と同時採集された生体の水槽繁殖標本. サンゴ体の長径 24.0 mm. 串本海中公園採集..

A-C: サンゴ体の上面, 側面および下面.

D: 隔壁の鋸歯と側面の顆粒列.

E: 肋の配列状態.

F: 斜め方向から見た肋の突起列.

G: サンゴ体の上面.

H: サンゴ体の下面.

図の撮影は全て立川浩之. 骨格拡大写真のスケールは一目盛 5 mm.

**形態:** 成体のサンゴ体は自由生活性で通常は単口性。サンゴ体は通常型またはワレクサビライシ型のいずれかの形状。観察に用いた通常型の標本の長径は 4.7~5.7 cm (N=4) (Hoeksema (1989) の検討標本は最大 7.5 cm)。ワレクサビライシ型のサンゴ体の半径は最大 3.6 cm (N>80)。

通常型のサンゴ体の輪郭はほぼ円形。長径は短径の 1.04~1.1 倍程度。サンゴ体はやや厚みのある円盤状 (図 3) から上面全体が盛り上がった中空のドーム状 (図 1, 2, 4)。サンゴ体下面はサンゴ体の盛り上がりに応じ凹む。口は上面中央に位置する。口の周辺の低次隔壁はあまり立ち上がらない。軸柱はサンゴ体に比して小さく、細かいトラベキュラの集合からなり、サンゴ体長径方向に延びる短い溝状または楕円形。軸柱の長径はサンゴ体長径の 6~11%程度。軸柱の長軸延長線方向 (=サンゴ体の長軸方向) に位置する隔壁は軸柱付近から緩やかな角度で立ち上がるため、軸柱が小さい割に外観上口が長く見える。

ワレクサビライシ型のサンゴ体は扇形~楔形の小片の集合からなり、再生の段階により様々な形態となる (図 5-10)。サンゴ体はやや厚みのある板状で、口の周辺の盛り上がりは見られないか、わずかに盛り上がる程度。大型のサンゴ体では全体が中空のアーチ状に盛り上がる (図 5, 6)。軸柱から放射状に延びる面を破断面として自切が起こるため、軸柱部が脱落して口が不明瞭だったり、再生に伴って一時的に複数の口が観察されたりすることも多い。

隔壁は密に配列し、ほぼ直線状であり蛇行しない。隔壁はやや厚く大型 (相対的に

低次) の隔壁と小型 (相対的に高次) の隔壁が交互に配列するが、高さの差はあまり大きくない。隔壁間の隙間は明瞭であるが、通常は乾燥標本でも隔壁間の複合シナプティキュラは容易に観察されないか、わずかに観察される程度 (図 3A, 4E)。触手葉は形成されない。隔壁の縁辺には整った細かい三角形の鋸歯が並ぶ。鋸歯の数は 1 cm あたり 29~57 程度。隔壁側面は微細な顆粒で覆われ、多くの場合顆粒は隔壁縁辺と垂直に並ぶ。

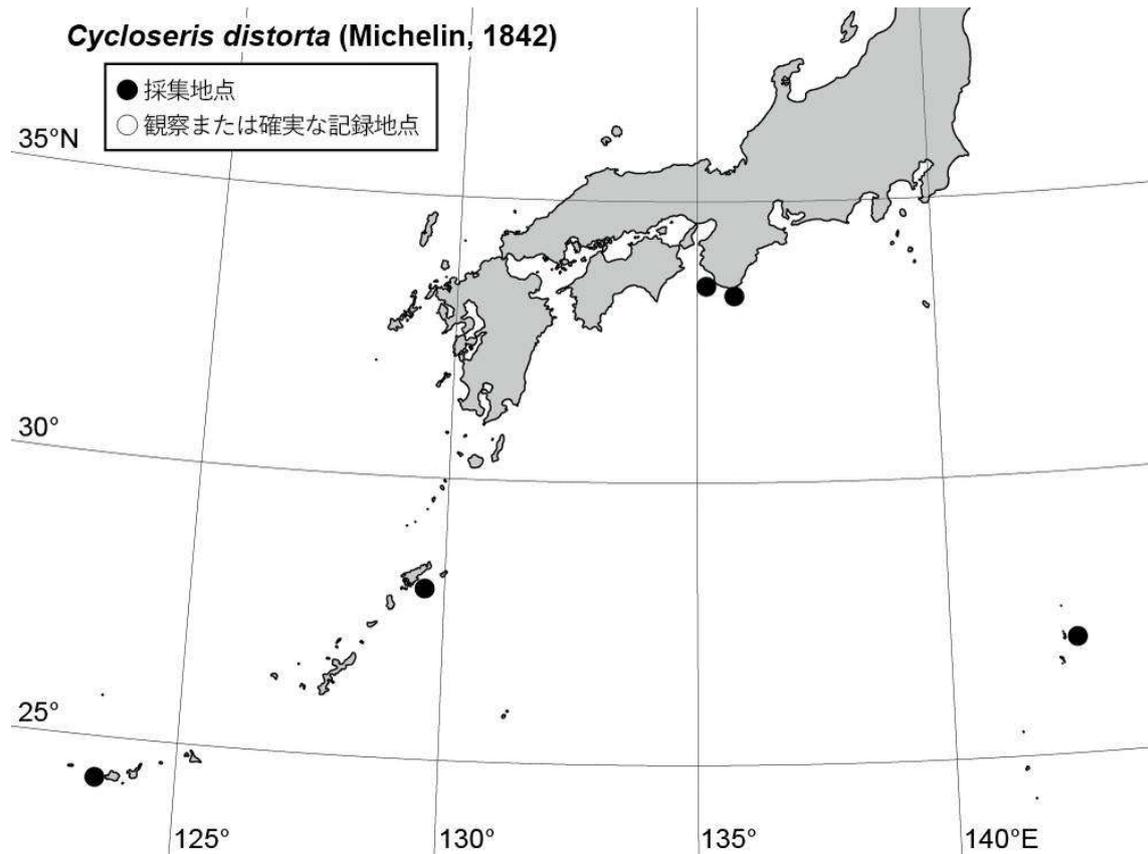
肋は細いが明瞭で、下面周縁部から中央部付近までほぼ直線状に連なる。肋はほぼ同大か、わずかに大きさの異なる大小の肋が交互に配列する。肋の縁辺には尖った三角形の突起が一系列の鋸歯状に並ぶ。肋縁辺の突起の数は 1 cm あたり 32~46 程度。サンゴ体壁に穴はあかない。

生時の色彩は茶褐色~淡褐色で、やや淡色のまだら模様がみられることがあり、稀に隔壁縁辺が緑色を呈する (図 8H)。

**識別点：**本種の通常型のサンゴ体で盛り上がりの少ないものは、*Cycloseris fragilis* ウスマンジュウイシの通常型のものと類似する。本種は、隔壁はやや厚く配列が密で、複合シナプティキュラは容易に観察されないことや、肋は同大か大小の差がある場合もわずかであることで、隔壁が薄く隙間を持って配列し、複合シナプティキュラが容易に観察され、明瞭に大小交互に配列する肋を持つウスマンジュウイシと識別される。

ワレクサビライシ型の形態をとる日本産の種の中では、本種は隔壁縁辺の鋸歯が整った三角形であること、隔壁間の複合シナプティキュラが容易に観察されないこと、肋がほぼ同大であることなどで類似種と識別される。本種の隔壁の厚さや隔壁間の隙間の大きさはウスマンジュウイシと *C. sinensis* シナマンジュウイシの中間の形態である。生時 (特に触手を伸ばした状態) には類似種との識別が困難なことも少なくないため、正確な同定のためには骨格標本を観察することが望ましい。

**分布と生態：**これまでのところ、本研究会および執筆者の調査では、八重山諸島の西表島、奄美諸島の奄美大島・加計呂麻島、和歌山県田辺湾および串本、小笠原諸島の父島列島から標本が得られている。本種は本州中部以南の海域に分布すると思われるが、他のマンジュウイシ属の種に比べて (特にワレクサビライシ型になる 3 種の中では) 生息数は少ないようである。波当たりの弱い礁斜面の深所や、やや内湾の深場の砂泥底などの環境に生息する。



新称和名：これまで日本国内の出版物で“*Diaseris distorta* ワレクサビライシ”として報告された写真を検討したところ、これらは下記のように同定された。

・他種の誤同定と思われるもの

西平 1991: 110 (一部), 下段写真 (=ウスマンジュウイシ); 西平 2019: 56 (一部), 骨格写真 (=シナマンジュウイシ).

・写真からは種同定が困難であるもの

西平 1988: 110, 2 図 ; 内田・福田 1989: 18, 1 図; 西平 1991: 110 (一部), 上段写真; 西平・Veron 1995: 239, 2 図; 野村・目崎 2005: 34, 図 21; 西平 2019: 56 (一部), 水中写真.

この結果、掲載写真から確実に *C. distorta* と同定されるものは見当たらなかった。なお、和名ワレクサビライシの提唱者は不明確であり、和名の基準標本は特定できなかった。一方、野村 (2016) の示した“*Cycloseris* sp. マンジュウイシ類の一種”のうち、図 12D-F の標本 (SMP-HC 472、和歌山県田辺湾口産：野村 (2016) に示された図のキャプションの標本番号・採集地点等は誤記と思われる) を検討したところ、*C. distorta* と同定されたが、同出版物では和名の提唱はなされていない。

以上のことから、*C. distorta* には適用可能な和名が存在せず、新称和名が必要と考えられる。本種がマンジュウイシ属の種であり、種小名 *distorta* が「ねじ曲げる」「歪める」という意味を持つラテン語の動詞 *distorqueo* に由来する語であることに因み、新

称和名ユガマンジュウイシを提唱する。新称和名の基準標本は CMNH-ZG 06782 (図 1:八重山諸島西表島網取湾、水深 37 m で採集) である。

和名提唱日：2025-09-28.

## 引用文献

- Hoeksema BW (1989) Taxonomy, phylogeny and biogeography of mushroom corals (Scleractinia Fungiidae). Zool Verh 254: 1-295. [[ResearchGate](#)]
- Hoeksema BW (2014) The “*Fungia patella* group” (Scleractinia, Fungiidae) revisited with a description of the mini mushroom coral *Cycloseris boschmai* sp. n. Zookeys. 17: 57–84. [[ZooKeys](#)]
- Michelin H (1843) *Fungia distorta*. Magazine de Zoologie d'anatomie Comparee et de Palaeontologie. Zoophytes: 12, pl. 5. [[BHL](#)]
- Michelin MH (1842) Description d'une nouvelle espèce de Zoophyte du genre Fongie. Revue Zool, Société cuvierienne 5: 316. [[BHL](#)]
- Milne Edwards H, Haime J (1851) Recherches sur les polypiers, sixieme memoire. Monographie des fongides. Annales des Sciences Naturelles. Ann Sci Nat Zool Biol Anim, troisieme serie, 15: 73–144. [[BHL](#)]
- Milne-Edwards H, Haime J (1860) Histoire Naturelle des Coralliaires ou Polypes proprement dits, tome troisieme. Roret, Paris. [[BHL](#)]
- Milne-Edwards H, & Haime J (1857) Histoire naturelle des coralliaires, ou polypes proprement dits. Atlas. Roret, Paris. [[BHL](#)]
- 西平守孝 (1988) フィールド図鑑 造礁サンゴ. 東海大学出版会, 東京.
- 西平守孝 (1991) フィールド図鑑 造礁サンゴ 増補版. 東海大学出版会, 東京.
- 西平守孝 (2019) 有藻性サンゴ類属の同定練習帳. 沖縄美ら島財団総合研究センター, 本部町.
- 西平守孝・Veron JEN (1995) 日本の造礁サンゴ類. 海游社, 東京.
- 野村恵一 (2016) 串本産有藻性イシサンゴ類図鑑. II ナミフウセン亜目. マリンパビリオン 特別号 6. [[串本海中公園](#)]
- 野村恵一・深見裕伸・座安佑奈・島田剛 ・北野裕子・横地洋之・下池和幸・立川浩之・奥裕太郎・鈴木豪・梶原健次 (2016) 串本産有藻性イシサンゴ類相の再整理. マリンパビリオン 特別号 4: 1-20. [[串本海中公園](#)]
- 野村恵一・目崎拓真 (2005) 高知県大月町海域から記録された造礁性サンゴ類. Kuroshio Biosphere 2: 29-43. [[黒潮生物研究所](#)]
- 内田紘臣・福田照雄 (1989) 沖縄海中生物図鑑 第9巻 サンゴ. 新星図書出版, 浦添.
- Veron JEN (1986) Corals of Australia and the Indo-Pacific. Angus & Robertson Publication, North Ryde, NSW.
- Veron JEN (2000) Corals of the world, vol. 2. Australian Institute of Marine Science, Townsville.

Veron JEN, Pichon M (1980) Scleractinia of eastern Australia, part III. Families Agariciidae, Siderastreidae, Fungiidae, Oculinidae, Merulinidae, Mussidae, Pectiniidae, Caryophylliidae, Dendrophylliidae. Australian Institute of Marine Science, Townsville. [[BHL](#)]

執筆者：立川浩之

**Citation：**

[JP] 立川浩之 (2025) *Cycloseris distorta* (Michelin, 1842) ユガマンジュウイシ. In: 日本造礁サンゴ分類研究会 (編) 日本産有藻性サンゴ類 WEB 図鑑. Accessed at: [https://coralmonogr.jpn.org/Cycloseris\\_distorta.html](https://coralmonogr.jpn.org/Cycloseris_distorta.html) on 2025-09-28.

[EN] Tachikawa H (2025) *Cycloseris distorta* (Michelin, 1842). In: Japanese Society for Coral Taxonomy (ed) Online Monograph of Zooxanthellate Corals of Japan. Accessed at: [https://coralmonogr.jpn.org/Cycloseris\\_distorta.html](https://coralmonogr.jpn.org/Cycloseris_distorta.html) on 2025-09-28.

**更新履歴：**

2025-09-28 公開